

## 平成 24 年度第 2 回理事会議事録

日 時：平成 24 年 9 月 1 日 10：00～13：45

会 場：東京ステーションコンファレンス 6F 「602A～D」

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

理事：岩下 光利、宇田川 康博、海野 信也、大道 正英、片渕 秀隆、嘉村 敏治、  
吉川 史隆、木村 正、工藤 美樹、上妻 志郎、田中 憲一、堂地 勉、深谷 孝夫、  
平松 祐司、水沼 英樹、水上 尚典、峯岸 敬、八重樫 伸生、吉川 裕之、  
吉村 泰典

監事：岡村 州博、和氣 徳夫

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、岸 裕司、北澤 正文、小林 陽一、佐藤 豊実、  
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、難波 聡、阪埜 浩司、  
藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

専門委員会委員長：青木 陽一

理事会内委員会委員長：竹下 俊行

第 66 回学術集会プログラム委員長：濱田 洋実

陪席：平原 史樹

名誉会員：神保 利春

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

10 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数 24 名のうち、23 名が出席し（石原理理事は欠席）定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村州博監事、和氣徳夫監事の計 3 名を選任し、これを承認した。

### I. 平成 24 年度第 1 回理事会議事録の確認

原案通り、承認した。

### II. 平成 24 年度第 2 回臨時理事会議事録の確認

原案通り、承認した。

### III. 主要協議事項

#### 1. 運営委員会の答申について [資料：運営委員会 1]

(1) 専門委員会運営内規の改定について [資料：運営委員会 2]

岩下光利委員長「専門委員会の定数や委員長、副委員長の承認方法、運営会議や評価会議の役割や参加者などを現実の運営に即して改定している。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) 本会の登録データの現状について [資料：運営委員会 3]

**岩下光利委員長**「情報管理委員会ではこの現状を踏まえて、データの収集方法や管理方法などを検討いただきたい。」

(3) 若手医師確保 WG の答申について [資料：運営委員会 4]

**平松祐司委員長**「今後の展開として、キャリアアップ DVD の作成や大学と病院の連携活動成功例の紹介、イベント参加者リストの作成、キャリアアップコースの調査などを行いたい。」

**岡井崇副理事長**「プロモーションビデオは産婦人科を全く意識していない学生の段階においても広く配布することを考えてはどうか。」

**小西郁生理事長**「大学新入生が受ける医学概論の講義の段階から産婦人科のアピールを意識するなど、早いうちから着実に手を打つことが重要である。」

若手医師確保 WG の答申につき特に異議なく、全会一致で承認された。

## 2. 学術委員会の答申について

業務担当理事報告並びに関連協議事項の学術の項で協議した。

## 3. 専門医制度について

(1) 専門医の在り方に関する検討会の中間まとめ(案)について [資料：協議 専門医 1, 2, 3]

(2) 専門医の在り方に関する本会との意見交換会について [資料：協議 専門医 4, 5]

7月2日に厚生労働省、日本専門医制評価・認定機構と本会の意見交換会議が行われ、本会から小西郁生理事長、吉川史隆専門医制度委員長が出席した。

**岩下光利理事**「中間まとめについては運営委員会でも議論したが、本会理事の先生方からいただいた意見を日本専門医制評価・認定機構に伝えてはどうか、また機構に対して関係学会から意見を徴集して専門医の在り方に関する検討会に伝えるように要望してはどうかとの意見があった。」

**小西郁生理事長**「中間まとめは厚生労働省が中心となって取りまとめており、大枠はこの方向で進むと思われるが、様々な段階で本会としての意見をいって行きたいと考えている。」

**海野信也理事**「日本専門医制評価・認定機構とは別に各学会が意見を提出する方がよいのではないか。大きなテーマである総合医については、各学会の立場によって意見が異なる可能性もある。」

**小西郁生理事長**「標榜の問題など他にも大きな問題を含んでいる。当面の動向を注視するとともに各学会が意見をいって行くことが必要である。」

## 4. 倫理委員会について

(1) 本会に申請なく着床前診断を行った大谷徹郎先生と、本会に申請なく着床前診断を行ったとの報道(7月23日付)があった諏訪マタニティークリニックの根津八紘先生への今後の学会としての対応について [資料：協議 倫理 1, 2, 3]

**落合和徳委員長**「根津八紘先生の件については本会声明を出したい。また今後、大谷徹郎先生、根津八紘先生に面談して医学的観点から話を伺う予定である。」

**平岩敬一弁護士**「本件については粛々と手順を踏んで進めることでよい。」

**海野信也理事**「根津八紘先生の件の本会声明については、本会ホームページに淡々と掲載することでよいと思う。」

**小西郁生理事長**「そうしたい。」

着床前診断に関する件への対応につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) 出生前診断に関する検討ワーキングの活動について

**平原史樹委員長**「出生前診断に関する見解は前回改定からまだ2年しか経っていないが最近の新しい検査手法の展開に対応すべく、本年3月に本ワーキングを立ち上げた。今回報道された母体血による臨床研究は、このワーキングとは無関係なところで動いているが、ワーキングの見解案では母体血検査などについても追補して十分なカウンセリングが必要であるという内容が

盛り込まれている。」

**落合和徳委員長**「報道されている NIPT コンソーシアムは、NIPT 検査を行う上での遺伝カウンセリングの基礎資料の作成を目的に 1,000 検体、2 年間の研究を行うということである。まだ各施設の倫理委員会を通過していないので、すぐにスタートできる訳ではない。」

**工藤美樹理事**「この検査については遺伝カウンセリングの体制整備が重要になるが、各大学、病院における準備のスピード感はどう考えればよいのか。」

**平原史樹委員長**「産婦人科専門医で臨床遺伝専門医は 195 人である。これをコアにして産婦人科医全体で取り組んでいかなければならない問題だと考える。」

**木村正理事**「新しい母体血検査への対応は産婦人科医だけで進めるべきではないし、どの施設でもできることが混乱の元なので適切なカウンセリングを行える施設の認定などの方向性を出す必要があるのではないか。」

**海野信也理事**「NIPT の臨床研究について、本会の臨床研究審査委員会で審査することはできないのか。最終的には関連する学会で検討することになるが、本件は複数施設に関わる臨床研究なので本会で総合的に審査するという考え方があってもよいのではないのか。」

**和氣徳夫監事**「今回の検査はリスクがあるものではないので、染色体異常を持った児の生きる権利をカウンセリングして行くシステムがあるかがこの臨床研究の重要なところである。」

**平原史樹委員長**「非医師の遺伝カウンセラーについては、医療報酬対価が付かないという問題がある。」

**吉村泰典理事**「NIPT コンソーシアムについては、臨床研究としてまだ自施設の倫理委員会を通過していないのかかわらず今回の報道になったのは非常に遺憾である。着床前診断における議論も考慮すれば、本件は現在ワーキングで作成している見解案に従って進めていただくというのがよいと思う。またダウン症についてばかり注目が集まることも避けるべきである。特に本件は社会的に大きな問題であるという認識を持ち、十分に考えて対応することが公益社団法人として求められているのではないのか。」

**上妻志郎理事**「基本は、マスキリングは行わないことと遺伝カウンセリングをしっかりと行うということであり、本会はその原則を貫いて行けばよい。」

**神保利春名誉会員**「羊水検査、血清マーカーの見解作成の際にも関わったが、今回の件は産婦人科の立場を維持しつつ他学会を含めてどう考えるかの検討が必要である。」

**平原史樹委員長**「日本医学会の『医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン』では、出生前診断については本会の見解を遵守することになっている。」

**海野信也理事**「着床前診断はまだ臨床研究であるということで本会が倫理審査を行っている。今回の件にも同様のスタンスが必要であり、きちんとした倫理審査を行って臨床研究を進めるといった枠組みを作る必要がある。そして専門家として、この検査を社会に定着化させていくための道筋を示して行くことが必要なのではないか。」

**水上尚典理事**「マスキリングを行わないことで一致しているとすれば、施設基準などのルールが必要なのか、学会としてそれにどこまで関与して行くのかがポイントになる。」

**木村正理事**「ルール作りが必要ならば尚更、この問題は産婦人科だけでなく他の分野の専門家の先生方を交えて議論して進めるべき問題である。」

**和氣徳夫監事**「患者さんからお金を取って進める臨床研究というのはありえるのか。」

**落合和徳委員長**「NIPT コンソーシアムは、今回の対象は元々羊水検査を受ける予定の患者さんなのでそれと同額の費用をいただくことは妥当ではないか、といている。」

**嘉村敏治理事**「本件は臨床研究であることを強調すべきである。ただその場合、研究目的やエンドポイントがよく分からない。本会としては、臨床研究のプロセスに則ったプロトコルを示すべきであるという意見を出すべきではないか。」

**水沼英樹理事**「臨床研究審査委員会では、学術的問題、方法論、倫理性、匿名性などをチェックすることになる。理事会としての方向感はどうなのか。」

**海野信也理事**「経済的負担の点は問題が残る可能性があるが、今後この検査が社会のなかでどう受け入れられるべきか、という臨床研究としては十分成り立つと考える。」

**水沼英樹理事**「最終的には受け入れることになるかも知れないが、本件は臨床研究審査以前の倫理的な大きな問題を抱えているので、学会としてはそこをきちんと固めておく必要がある。」

**水上尚典理事**「厚生労働大臣が本会に指針を作ってほしい、とコメントしたようだが、検査の容易性と高齢出産の増加を考えると、本検査はマスキリングに移行してしまう可能性がある。国民的な議論が必要な問題であり、国が指針を出すべきテーマではないか。本会は産婦人科の職能集団であり倫理学、法律学、社会学の専門家ではない。本会のみで対応すべき問題で

はないのではないか。」

**小西郁生理事長**「今後確実に導入される検査であり、これを放置すると混乱が起こる可能性は高く、本会としても何らかの関与を行いルール立てを示す必要はあると思う。今回の臨床研究から距離を置いて意見をいって行くのか、それとも関係学会と連携して委員会を設けて審査していく方向なのか、難しいところである。」

**吉川裕之理事**「今回の臨床研究の目的がよく分からない。国立成育医療研究センターの倫理委員会を通れば他施設の倫理委員会でも通るかも知れないが、これは本会の臨床研究審査委員会を通したほうがよいように思う。」

**和氣徳夫監事**「まず臨床研究としての形をきちんと整えてもらうこと、そしてルールについては本会が主導していく必要があると思う。」

**深谷孝夫理事**「どうもこの件は雲を掴むような印象である。学会に研究計画を申請してもらえれば、もう少しはっきりした議論ができるのではないか。」

**上妻志郎理事**「この研究の前提は、検査費用を払って検査を受ける患者さんに対する実態調査を行って今後の本格導入時の資料にするということである。この前提が正しいのであれば研究費を患者さんから取ることにはならない。」

**落合和徳委員長**「本件の重要性はご理解いただけたかと思うが、学会が審査、承認して研究を推進していくものなのか、意見を述べる立場なのか、第3者的立場でよいのか、ここでは学会の関わり方がある程度はっきりさせておく必要がある。」

**岩下光利理事**「本会だけでルールを決めて広く遵守してもらうのには無理がある。日本医学会の中にも倫理委員会があり、医者全体の問題として日本人類遺伝学会など関連学会を含めたレベルで考えて行く必要がある。」

**海野信也理事**「厚生労働大臣のコメントはそれで意味がある。全てを本会だけで対応できないことは十分説明がつくとは思いますが、他学会を含めてこの方向で進めていく、ということを手導するのは現段階では本会に託されていると考えるべきである。だから出生前診断に関する見解はまだ案の段階ではあるが、本会の基本的な考え方として本日の記者会見でも示した方がよいと思う。そして今回の臨床研究については、まだ詳細を把握していないので本会としても今後精査して行きたい、ということでは如何だろうか。」

**小西郁生理事長**「今後、関係する学会にも声をかけて本会が中心となった委員会を設けて倫理面を含めた検討を行い、この問題に責任を持って対応していく、ということで進めたい。」

**平岩敬一弁護士**「この件は本会がしっかりとした意見を表明する必要がある。まずは現在検討している見解案を示すこと、日本医学会から本会見解に従うという指針が出ていることを広く伝えること、日本医学会に対して他学会を含めて協議する場を作ることを要請すること、NIPTコンソーシアムには学会の見解に従うよう要請すること、国に対しては法整備を行うように要請することなどを行うとよい。」

小西郁生理事長の示した本会の今後の対応方針につき特に異議なく、全会一致で承認された。

**落合和徳委員長**「『新たな手法を用いた出生前遺伝学検査について』を、本日、理事長声明として提示する予定であるが、これでよいか。」

**小西郁生理事長**「特に意見がないようであれば、出生前診断に関する見解改定案と合わせて本日の記者会見で示したい。」

## 5. 第65回学術講演会について [資料：第65回学術講演会1、2]

**金内優典第65回学術集会プログラム委員長**「教育講演を1つ追加して7コマとしたこと、FIGOフォーラムと若手ワークショップのジョイント企画を行うようにしたことが前回からの変更点である。専攻医教育プログラムのタイトルに一部変更があるが、これをお認めいただきたい。」  
本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

## 6. その他

(1)平成25年度日本産科婦人科学会予定表(案)について [資料:協議 その他1]

#### IV. 専門委員会報告並びに関連協議事項

##### 1) 生殖・内分泌委員会（峯岸敬委員長）

(1) ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

8月22日現在、入金済5,663冊、校費支払のため後払希望 0冊。

##### 2) 婦人科腫瘍委員会（青木陽一委員長）

(1) 婦人科がん取扱い規約一抜粋—（第2版）を出版するにあたり、著作権者の4学会および金原出版の間で出版契約書を締結した。〔資料：専門委員会1〕

##### 3) 周産期委員会（海野信也委員長）

(1) B型肝炎ワクチンおよび抗HBs人免疫グロブリンの開発要望を厚生労働省に提出するに当たり、日本小児科学会への協力依頼書を出して、同学会予防接種委員会との打合せを実施した。〔資料：専門委員会2〕

(2) イナビルの妊婦・新生児に対する特定使用成績調査への協力依頼について

〔資料：専門委員会3〕

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

##### 4) 女性ヘルスケア委員会（堂地勉委員長）

堂地勉委員長「ホルモン補充療法ガイドライン2012を9月15日に発刊予定である。」

#### V. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

##### 1) 総務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

① 小林輝夫功労会員（埼玉）が7月26日にご逝去された。（供花、弔電手配済み）

② 坂口正一功労会員（奈良）が8月13日にご逝去された。（供花、弔電手配済み）

(2) 情報管理委員会の設置について

本会の持つ周産期、腫瘍、ART、（女性ヘルスケア）各分野の膨大な登録データについて、本会会員や部外者からそのデータを使って研究解析したいという申し出があった場合に、その目的・公表方法が適正か否かを審議し、データ提供の諾否を決定するとともに適切なデータ管理体制を整備することを目的として情報管理委員会を設置したい。

情報管理委員会の委員長、委員等は以下の先生方に委嘱したい。

委員長：竹田 省

副委員長：久保田俊郎

主務幹事：阪埜 浩司

委員：岡本愛光、齊藤英和（ART登録調査）、佐藤昌司（周産期登録調査）、澤 倫太郎、蜂須賀 徹（腫瘍登録調査）、矢野 哲

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) 公益事業推進委員会の設置について

企業からの寄附をいただいて公益事業を展開するプロジェクトを具体化することを目的として公益事業推進委員会を設置したい。学会として取組むべき様々なプロジェクト（海外協力や若手支援など）を企画立案し、そのプロジェクトを企業に示して寄附金拠出を依頼する役割を担っていただくことになる。

公益事業推進委員会の委員長、委員等は以下の先生方に委嘱したい。

委員長：石原 理  
副委員長：綾部琢哉  
主務幹事：難波 聡  
委員：青木大輔、岡本愛光、久保田俊郎、竹下俊行、矢野 哲  
本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(4) 近畿ブロックからの理事選出について

小森慎二理事のご逝去に伴い、近畿ブロックからの後任理事候補者として小林浩先生が選出された。本理事会終了後に平成 24 年度第 2 回臨時総会を開催して理事の選任を行う。

[資料:総務 1]

(5) FIGO 2021 会長候補者の推薦について [資料:総務 1-1]

**岩下光利理事**「木村正理事が立候補された。FIGO2021 会長候補者選考委員会で審議したが、木村正先生は渉外担当理事として活躍されており、候補者として適任と考える。」

**平松祐司理事**「エクステンジプログラムやインターナショナルワークショップは FIGO からの評価が高く、投票までに日本のよさや貢献度を積極的にアピールすべきである。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(6) 学会・医会ワーキングの開催について

学会・医会ワーキングを 8 月 1 日に開催した。

**岩下光利理事**「本会からは、海外義援金の使用方法や震災対策マニュアルの作成、産科医療補償制度の原因分析報告などを行った。」

(7) 第 66 回学術集會を担当するコンベンション会社の選定について

公募およびプレゼンを含む選定作業の結果、MA コンベンションコンサルティングに業務委託することとなった。

(8) 専門医制度に関する関連団体打合せ会について

本会のサブスペシャリティ学会である、日本周産期・新生児学会、日本生殖医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本女性医学学会と、研修カリキュラムや倫理、医療安全等の専門医制度に係る諸問題について協議する会議を設定し、10 月 5 日に第 1 回会議を行う予定である。

[資料:総務 2]

(9) 幹事の交代および追加委嘱について

①中村和人先生の幹事委嘱を解き、新たに岸裕司先生に委嘱したい。

②難波 聡先生を幹事として追加委嘱したい。

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

新任の両幹事より一言ずつご挨拶があった。

(10) 各種規則の定款等を引用する条番号変更について

定款及び定款施行細則は 6 月に改定したが、その結果、条番号が変更となった。各種規程には定款及び定款施行細則の条項を引用している部分があり、そこでの条番号を変更することにしたい。[資料:総務 3]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(11) 役員賠償責任保険への加入について

社団法人の役員としての業務について行った行為に起因して損害賠償請求がなされて被っ

た損害に対する保険に加入することとしたい。なお年間保険料の 10%程度が役員の自己負担となる。[資料:総務 3 - 1]

**小西郁生理事長**「加入の方向で調整中であるが、もう少し詳細を詰めていく方向である。」

## 〔Ⅱ. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

- ①同省健康局結核感染症課から、風しん対策の更なる徹底について会員への周知依頼があったため、本会ホームページに掲載した。[資料:総務 4]
- ②同省医政局より、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の制定について通知があった。
- ③同省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、平成 24 年度健やか親子 21 全国大会[平成 24 年 10 月 31 日～11 月 2 日、ベイシア文化ホール(前橋市)]の開催通知、および「健やか親子 21」最終評価の実施依頼を受領した。[資料:総務 5, 6]
- ④同省医薬食品局より、「献血血液の研究開発等での使用に関する指針」についての周知依頼を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知した。[資料:総務 7]
- ⑤同省医薬食品局安全対策課より日本医学会を通して、医療機器の不具合等報告の症例の公表および活用についての周知依頼を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知した。[資料:総務 8]
- ⑥同省健康局結核感染症課および雇用均等・児童家庭局母子保健課より、「不活化ポリオワクチンの導入に関する母子健康手帳の記載事項の取扱いについて」の周知依頼を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知した。[資料:総務 9]

**岩下光利理事**「不活化ポリオワクチンの接種回数が 4 回に増えたことで、母子健康手帳の記載が変更になった旨の周知である。」

- ⑦同省健康局より小西郁生理事長に対して、9 月 3 日に開催される「第 2 回がん検診のあり方に関する検討会」への参考人としての招聘があった。議事は、子宮頸がん検診についてである。[資料:総務 9-1]

### (2) 内閣府

内閣府再就職等監視委員会から、大臣官房公益法人行政担当室を通して国家公務員の再就職等規制に関する制度の周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員への周知を図った。[資料:総務 10]

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本医学会

- ①日本医学会法人化組織委員会が 8 月 15 日に開催された。[資料:総務 11]

**岩下光利理事**「日本医学会でも専門医制度委員会を設置して検討する予定である。」

- ②第 14 回日本医学会公開フォーラムの開催案内を受領した。[資料:総務 12]
- ③11 月 22 日に開催する、第 3 回日本医学会分科会利益相反会議の案内を受領した。[資料:総務 13]
- ④日本医学会を通して厚生労働省労働基準局労災補償部から、「セクシャルハラスメントが原因で精神障害が発病した場合は労災保険の対象になります」の周知依頼を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知した。[資料:総務 14]

### (2) 日本産婦人科医会

無申請での着床前診断実施に関して、日本産婦人科医会は同会員に対して、本会の声明を支持するとともに提供する医療内容が所属団体の規範に合致していることを確認して施行するよう依頼を行った。[資料:総務 15]

(3) 日本小児科学会

7月10日に本会と日本小児科学会の合同委員会が開催された。今後、本会からは周産期委員会から担当委員を出して両学会5名ずつの委員で合同委員会を開催し、ガイドライン作成の際の意見交換や共同の要望書提出、会員への周知など、新生児領域を中心として協議を行って行くことが確認された。[資料:総務16]

(4) 日本腎臓学会

今般、同学会が「腎疾患患者の妊娠 - 診療の手引き」の改訂を行うにあたり、本会の関博之先生と水上尚典先生の改訂委員就任を依頼してきたので、これを応諾した。[資料:総務17]

(5) 日本高血圧学会

同学会より、高血圧治療ガイドライン2014年版の作成にあたり、リエゾン委員の推薦依頼があり、本会から水上尚典先生を推薦した。[資料:総務18]

(6) 日本性感染症学会

HPV ワクチン男子適応拡大の要望書の提出時期を再延期することについての中間報告を受領した。[資料:総務19]

**岩下光利理事**「国内臨床試験が遅れているのが原因とのことである。」

(7) 日本がん治療認定医機構

8月20日に開催された2012年度関連学会連絡委員会に、本会から櫻木範明第65回学術集会長が出席した。[資料:総務20]

**櫻木範明第65回学術集会長より**日本がん治療認定医機構の設立経緯、事業説明および専門医制度との関係などの現状の問題点などに関する補足説明があった。

(8) 日本医療機能評価機構

同機構再発防止委員会で作成した「再発防止に関する報告書」の「学会・職能団体に対する要望」に関して、同機構に対し本会の取り組みや報告書の活用状況を報告した。

[IV. その他]

(1) 財団法人日本医科器械資料保存協会から平成24年度「医科器械史研究賞」および「青木賞」受賞候補者の推薦依頼を受領した。[資料:総務21]

**岩下光利理事**「本会からの該当者はいないようである。」

(2) 日本家族計画協会より、知っているようで知らない「性の健康セミナー」(平成24年10月21日、UDX秋葉原)の後援依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(3) 日本看護協会とジョンソンアンドジョンソングループから、第9回ヘルシー・ソサエティ賞候補者の推薦依頼を受領した。[資料:総務22]

**岩下光利理事**「本会からの該当者はいないようである。」

(4) MSD株式会社より、フォリトロピンベータ注射液「フォリスチム注300IUカートリッジ」品薄についてのお詫びを受領した。[資料:総務23]

(5) 本年11月に予定されていた第8回アジア・パシフィック母体胎児医学会は、円高や経済的事情から開催を中止することになった。[資料:総務24]

(6) 「戦争と医の倫理」の検証を進める会より、「戦争と医の倫理」国際シンポジウム(平成24



年 11 月 17 日、京都大学百周年時計台記念館) およびパネル展開催の案内を受領した。

(7) 日本女性科学者の会賞事務局より、「第 18 回日本女性科学者の会奨励賞」募集要項回覧・揭示依頼を受領した。[資料:総務 25]

(8) 日本女性医学学会から、平成 24 年 10 月 18~24 日に実施する 2012 年度「メノポーズ週間」事業への後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

## 2) 会 計 (岡井崇副理事長)

(1) 取引銀行の格付と預金残高について [資料:会計 1]

## 3) 学 術 (峯岸敬理事)

(1) 学術委員会関連

### ① 会議開催

学術担当理事会、第 2 回学術委員会を 8 月 31 日に開催した。

**峯岸敬理事**「二つの小委員会を新たに策定することとなった。一つは学術集会での発表に際し、齟齬あった場合の対応や COI に関する規定を決めていく小委員会、もう一つは若手医師の海外派遣に際し、教育委員会と協力し評価方法を検討する小委員会である。」

**木村正理事**「ACOG におけるポスター発表について、周りのポスター発表は臨床的な内容であるが、本会派遣者の発表は非常に基礎的でやや浮いているような印象を受ける。ACOG は若手の教育的な場であるので、もう少し低い学年の若手が参加してもよいのではないかと考える。」

**峯岸敬理事**「今後検討したい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) 学術委員会・学術講演会運営要綱の一部改定について [資料:学術 1]

**峯岸敬理事**「微細な文言の変更のみである。例えば『意見交換会』を『情報交換会』に変更するといった内容である。」

**平松祐司理事**「表彰式は情報交換会の前に行った方がよい。情報交換会の中で行うと注目されにくいためである。メイン会場の収容人員やポスターの必要枚数を現実的なものとして再検討した方がよいのではないか。」

**峯岸敬理事**「今後、現実に照らし合わせる形で検討したい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) 各賞推薦・応募について

### ① 学術奨励賞に関する会告について

学術奨励賞の推薦、応募方法に関する会告を機関誌 64 巻 8 号に掲載した。推薦の期間は平成 24 年 10 月 1 日から 10 月 31 日である。

### ② 優秀論文賞に関する会告について

優秀論文賞の応募方法に関する会告を機関誌 64 巻 9 号に掲載する。応募の期間は平成 24 年 12 月 10 日~平成 25 年 1 月 9 日である。

(4) 他団体特別賞推薦依頼について

### ① 「平成 24 年度神澤医学賞」

理事および学術委員会委員に「平成 24 年度神澤医学賞」候補者の推薦をお願いし、推薦期日までに 1 名の候補者推薦を受けた。[資料:学術 2]

**峯岸敬理事**「東京大学の犬須賀穰先生を、子宮内膜症の業績に照らし合わせて、学術委員会として推薦したい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

#### (5) プログラム委員会関連

##### ①第 65 回学術講演会プログラム委員会

8 月 9 日より一般演題の応募を開始、締切は 10 月 4 日正午である。

##### ②第 66 回学術講演会プログラム委員会

特別講演演者推薦、シンポジウム担当希望者公募を機関誌 64 巻 8 号に掲載、期限は 11 月 30 日である。

##### ③第 67 回学術講演会プログラム委員会

シンポジウム課題公募を機関誌 64 巻 8 号に掲載、期限は 11 月 30 日である。

#### 4) 編集 (上妻志郎理事)

##### (1) 会議開催

8 月 31 日に第 2 回編集担当理事会を開催した。

##### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2012 年投稿分 (7 月 31 日現在) [資料: 編集 1]

投稿数 626 編 (うち Accept 58 編 Reject 310 編 Withdrawn/Unsubmitted 114 編 Under Revision 24 編、Under Review 119 編、Pending 0 編、Expired 1 編)

##### (3) JOGR インパクトファクターについて

2011 年のインパクトファクターは 0.942 となった。ランクは 78 誌中 64 位である。

**上妻志郎理事**「ランクは未だ高くない。今後とも IF をあげるべく努力を続けていきたい。」

##### (4) JOGR と AUSTRALIAN and NEW ZEALAND COLLEGE of OBSTETRICIANS and GYNECOLOGISTS と ACTA OBSTETRICIA et GYNECOLOGICA SCANDINAVICA との合意書について [資料: 編集 2]

ローマでの FIGO World Congress の際に調停式を行う予定である。

##### (5) 8 月 10 日より和文機関誌のオンラインジャーナル化の第一歩として学会ホームページで公開を開始した。ID は会員番号、パスワードは生年月日である。今後、会員の皆様のご意見を伺いながら充実を図っていく予定である。

**上妻志郎理事**「8 月 10 日に一度公開を行ったが、セキュリティ上の問題が判明したため、即座にクローズした。現在、公開に向けて慎重に準備を重ねている。」

#### 5) 渉外 (木村正理事)

##### (1) 会議開催

8 月 31 日に第 2 回渉外理事・幹事会議を開催した。

##### [FIGO 関係]

(1) XX FIGO World Congress (10 月 7~12 日、於: ローマ) の展示会場に JSOG テーブルを設置し、日本で開催される国際会議等のプロモーションを行う予定である。

(2) XX FIGO World Congress のプロモーションスライドを地方、国内外の学会にて上映し、Congress への参加を促すよう FIGO より協力依頼を受けた。

##### [ACOG 関係]

第 65 回日産婦学会学術講演会における Exchange Program に、ACOG 役員 3 名、若手医師 6 名、および Director of Office of the Executive Vice President を招待する旨、Executive Vice President の Dr. Hal C. Lawrence, III 宛招待状を送付した。

##### [AFOG 関係]

(1) 6 月 23 日にフィジーにて開催された AFOG Council Meeting に、本会より木村正渉外担当

常務理事、および上妻志郎編集担当常務理事が出席した。 [資料: 渉外 1]

(2) AOCOG2013 (2013年10月20~23日、於: バンコク) へ本会より11名のスピーカーを推薦した。 [資料: 渉外 2]

**木村正理事**「本年の学術集会で優秀演題賞のライターにあたる講師クラスの先生を推薦した。」

[SOGC 関係]

(1) 6月20~24日、Ottawaにて開催された第68回 SOGC Annual Clinical Meeting における Exchange Program に、本会から工藤美樹理事、永瀬智幹事、若手医師3名を派遣した。

(2) 第65回日産婦学会学術講演会における Exchange Program に、SOGC 役員3名、若手医師3名を招待する旨、President Dr. Douglas Black 宛招待状を送付した。

[KSOG 関係]

(1) 日韓カンファレンス世話人について

**木村正理事**「丸尾猛先生に来年の4月までは世話人をお願いしたいと考えている。」

(2) 9月11~13日、韓国産婦人科学会と韓国メディアが来日し、京都、浜松、東京にて取材を行う予定である。

**木村正理事**「今回の取材テーマは主に若手リクルートと産科医療補償制度についてであった。」

[その他]

(1) 7月24~26日、木村正渉外担当常務理事と上田豊渉外主務幹事がカンボジアを訪問し、本会とカンボジア産婦人科学会との今後の交流について協議した。 [資料: 渉外 3]

**木村正理事**「国際協力事業の一環としてカンボジアの中堅医師2名程度を日産婦学術集會に招待したい。可能であれば JICA の母子保健支援プログラムに組み込んで1週間程度、日本の施設で見学してもらいたいと考えている。グラントは現在検討中である。またカンボジアへ日本の医師が1週間程度滞在し、講演や現地の医療事情の見学といったプログラムを考えている。今後、公益事業推進委員会に提案したい。」

**岩下光利理事**「運営委員会でも本件は推進すべきである、との結論であった。」

**小西郁生理事長**「今後、公益事業の一環として位置づけたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) WATOG (World Association of Trainees in Obstetrics and Gynecology) Foundation Project へ東京大学の板岡奈央先生を本会代表として選出した。 [資料: 渉外 4]

(3) 7月9~12日にスイス ジュネーブで開催された第18回国際妊娠高血圧学会に水上尚典理事が出席した。 [資料: 渉外 5]

**櫻木範明第65回学術集會長**「第65回学術集會では、オフィシャルなエクステンジは ACOG と SOGC であるが、さらに KSOG からオフィサー9名・若手3名、TAOG からオフィサー9名・若手3名、ドイツからこれまで日独に関わって来られた先生4名・若手3名を招待することとした。」

**木村正理事**「特に日独については今後は学会レベルでの交流の方がよいという意見が出ており、そのきっかけにさせていただきたい。」

## 6) 社 保 (吉川裕之理事)

### (1) 會議開催

①8月31日に第4回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催した。

**吉川裕之理事**「全国7施設から代表を招聘し婦人科悪性腫瘍におけるロボット支援手術について

協議した。共同で先進医療の計画を出す方向で調整している。」

②10月5日に第3回社保委員会を開催の予定である。

(2) 本会社保委員であった松田静治先生が6月15日逝去された。

(3) 「第4版 産婦人科医のための社会保険ABC」について500部の増刷が決まった。(初版1,500部、2刷700部)

(4) 第2回 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望募集に提出された要望のうち、以下の産婦人科関連の医薬品について企業に開発の要請が行われた。

・乾燥濃縮人アンチトロンビン III：後天性アンチトロンビン欠乏症における血栓塞栓性合併症（Gestosis Index 6以上の妊娠高血圧症候群に限る）の治療

・硫酸マグネシウム：重症妊娠高血圧症候群における子癇の予防（日本妊娠高血圧学会要望）

・レボノルゲストレル：過多月経

(5) 技術評価の適正化のための手術に関する調査実施について（外保連） [資料:社保1]

(6) 疑義解釈委員会より平成24年度第2回供給停止予定品目について検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

(7) Bakri バルーンカテーテル保険償還に対する要望書を厚生労働大臣に提出した。  
[資料:社保2]

## 7) 専門医制度（吉川史隆理事）

### (1) 会議開催

①9月7日（金）に筆記試験問題評価委員会を開催する予定である。

②9月23日（日）に第3回中央委員会を開催する予定である。

### (2) 日本専門医制評価・認定機構

①研修施設訪問調査説明会が8月20日に開催され、本会からは吉川史隆理事が出席した。

説明会で、平成24年度研修施設訪問調査対象施設の推薦依頼および、施設訪問調査における施設評価手引き「研修施設認定の基本方針と基準の概要」の提出依頼があった。

[資料:専門医1-1、1-2]

②「平成24年度概報」「日本専門医研修施設便覧（2012-2013）」の原稿作成依頼があり、今年度の審査終了後、10月1日現在の専門医数等を回答する予定である。

(3) 日本癌治療学会からインターネットを利用した専門医の育成等事業についてのアンケートが送られてきたので回答した。[資料:専門医1]

(4) 全国医学部長病院長会議より、同会議が専門医育成のあり方を検討するための「専門医研修（後期臨床研修）についての調査のお願い」を受領した。 [資料:専門医2]

**吉川史隆理事**「本年7月末に行われた専門医試験において、症例の実施等が確認できない受験生がいたことが判明した。竹下俊行認定小委員長に調査をお願いしている。」

**竹下俊行委員長**「指導責任医にヒアリングを行う予定である。次回の中央専門医制度委員会において対応を協議したい。」

平松祐司理事「専攻医教育プログラムが今年から始まった。ホームページの会員専用ページでハンドアウトの PDF と動画を公開している。参加した初期研修医からは非常に好評であった。現在、学術集会長の責任で公開しているが、今後、専門医制度委員会において長期的な展望と対応を考えてほしい。若手医師確保の点からもうまく利用してほしい。」

吉川史隆理事「よいプログラムであると考えている。専門医の受験資格にしたいと考えるが、そこまでは時期尚早である。前向きに検討したい。」

木村正理事「専攻医教育プログラムのスライドは peer-review でチェックされているのか。」

平松祐司理事「完全な peer-review のチェックはなされていないが、一定の配慮は行った。自施設中心の内容にならないような演者を選んだつもりである。」

木村正理事「チェックの仕組みがあった方が安全かもしれない。検討をお願いしたい。」

## 8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 24 年 7 月 31 日)

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：43 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：568 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：568 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：506 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理 1]

8 月 17 日現在申請 296 例 [承認 239 例、非承認 4 例、審査対象外 18 例、取り下げ 1 例、照会 9 例、審査中 25 例] (承認 239 例のうち 7 例は条件付)

(3) 会議開催

- ① 「平成 24 年度第 1 回着床診断に関する審査小委員会」を 7 月 20 日に開催した。  
また、冒頭 1 時間程度を使い、倫理委員を加えて 7 月 11 日付けで本会に申請なく着床前診断を行ったとの報道があった大谷徹郎先生への対応の打合せを行った。
- ② 「平成 24 年度第 1 回倫理委員会」の集合会議を 7 月 31 日に開催した。
- ③ 「出生前に行われる検査および診断に関する見解改定案ワーキンググループ委員会」を 8 月 22 日に開催した。
- ④ 「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解/考え方に関する改定 WG 委員会」を 8 月 23 日に開催した。
- ⑤ 着床前診断の実施状況その他について大谷徹郎先生への事実確認を、9 月 13 日に学会事務局において、落合倫理委員会委員長と平原着床前診断に関する審査小委員会委員長の 2 名により行う予定である。

(4) 7 月 16 日に「遺伝カウンセリング講習会」を開催した。(受講者 236 名)

受講者報告—アンケートまとめ—[資料：倫理 2]

(5) 本会に申請なく着床前診断を行った大谷徹郎先生の件に関して、本会の声明をとりまとめ、7 月 27 日 18 時より記者会見を行った。

(6) 本会に申請なく着床前診断を行ったとの報道 (7 月 23 日付) があった諏訪マタニティークリニックの根津八紘先生への事実確認を、長野県地方連絡委員の塩沢丹里先生が行った。

(7) 出生前診断に関する検討ワーキングの活動について [資料：倫理 3、4]

本件は、主要協議事項 4. 倫理委員会の項で協議した。

(8) 日本ダウン症協会から、遺伝子検査に関する指針作成の際には同協会の意見に配慮してほしいとの要望を受領した。[資料：倫理 5]

## 9) 教育（八重樫伸生理事）

### (1) 会議開催

①第2回教育委員会を若手育成委員会と合同で8月31日に開催した。

八重樫伸生理事「来年の学術集会における若手医師企画について協議された。数分の予告編をYouTubeにあげたいとのことであった。」

②第65回学術講演会時Exchange Programメンバーによる打合会を8月31日に開催した。

### (2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

8月22日現在、入金済6,049冊、校費支払のため後払希望42冊。

### (3) 書籍発刊について

①日本産科婦人科学会女性ヘルスケア委員会と日本女性医学学会の共同編集による「ホルモン補充療法2012年度版」を7月11日に校了とした。9月中旬発刊予定、頒布価格税込み3,000円（送料本会負担）。10月開催日本女性医学学会会場において販売の予定である。なお、販売事務は本会が行う。

②専門医制度委員会が企画・編集した「若手のための産婦人科プラクティス」を9月中には発刊すべく校正を進めている。頒布価格税込み2,000円（送料本会負担）。

③初めての試みであるが「産婦人科用語集・用語解説集」を本会から発刊するため、順次、校正を進めている。書籍版は来春発刊予定、オンライン版については書籍版発刊後速やかに収載すべく準備を行う。頒布価格等については改めて報告する予定である。

(4)7月5日開催の西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部定時総会で社会貢献関係の議案が議決され、平成24年度についても産科医師育成奨学基金48,000千円及びサマースクール支援2,000千円についての支援が決定された。

(5)西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部「産婦人科医育成奨学基金」を平成22年度から23年度の2年間にわたり受給していた方に対し、感謝文執筆依頼を所属機関産婦人科教授を通して行った（7月11日）。なお、この感想文は西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部の社会貢献の書類に掲載される場合もある。

(6) 明治産婦人科医育成奨学基金制度による海外研修派遣支援の実施について【ACOG ACM 2013】8月15日を締切として公募を行った。応募数：23名。

教育委員会委員を中心とした選考委員会委員に書類選考を依頼している。なお、審査結果については応募者に通知する。

八重樫伸生理事「本年度の選考は従来通りの方法で行った。来年以降の選考に際し、ISプログラムで発表したり、FIGOフォーラムに出席したりしたものに対してポイントをつけてはどうかという意見が学術委員会の方からあがっている。学術委員会と共同して検討していきたい。」

## 10) 地方連絡委員会（落合和徳副理事長） 特になし

## VI. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会（嘉村敏治委員長）

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について

2012年8月1日からの契約更新により、現在、8,679名がログイン可能となっている。

(4) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について [資料：広報2]

- ②「病気を知ろう」コンテンツ追加について  
周産期委員会の依頼により、産科の病気に「妊娠糖尿病」と「前置胎盤」を追加した。
- ③関連学会 website の一般向け疾患説明文とのリンクについて

(5) Newsletter Reason for your choice 11号について [資料：広報無番]

(6) 本会ホームページ会員専用ページのe医学会システム導入に関するワーキンググループを総務、専門医制度、広報の主務幹事、事務局で結成し、9月6日に第1回会議を予定している。

## 2) 未来ビジョン委員会 (吉村泰典委員長)

(1) 指導医制度について [資料：未来ビジョン1]

吉村泰典委員長「指導医制度の策定に関する検討を専門医制度委員会が中心となって行っている。今後ともご意見があればいただきたい。」

## 3) 震災対策・復興委員会 (岡井崇委員長)

震災対策マニュアルの作成分担を決定し、各先生に作成を依頼した。 [資料：震災対策1]

## 4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

- ①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について  
8月22日現在、入金済13,332冊、後払希望52冊。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

- ①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について  
8月22日現在、入金済10,839冊、後払希望48冊。

②会議開催

平成24年度第2回作成委員会を7月15日(日)に、平成24年度第3回作成委員会を8月5日(日)に開催した。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸敬委員長) 特になし

(5) 日本小児科学会に対して、「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2014年版」作成のためのリエゾン委員1名の推薦を依頼したところ、板橋家頭夫先生(昭和大学)の推薦を受けた。

[資料：ガイドライン1]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

## 5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長)

(1) 日本医学会から[日本医学会分科会における医学研究に関する利益相反対応の現状アンケート]の依頼があった。 [資料：コンプライアンス1]

(2) 利益相反情報開示に関する運用細則改正について [資料：コンプライアンス2]

平松祐司委員長「ガイドライン作成委員と調整役のCOI情報は、作成委員長および評価委員長に申請等を必要とせずに報告されることにするための改正である。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

## 6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 東京慈恵会医科大学より、同大学でスタートさせる予定の研究課題「産科医療の質と向上へのヒントー産婦人科診療ガイドライン実施率の観点からー」について、これを本会との共同研究とすること、質問項目の作成および分娩取扱い施設への回答依頼について本会に協力してほしい旨の依頼を受領した。[資料：医療改革 1、2]

**海野信也委員長**「診療ガイドラインにおける各項目の実施率がどの程度あるかについての臨床研究であるが、質問項目を具体的に作成する点および回答協力に関する共同作業が主たる業務。実際にガイドラインがどれだけ現場で活用されているか、あるいは実施されているのかを調査することはガイドラインの改善に必要なことである。本委員会としてはその意義を認識し協力していく方向となった。窓口的には周産期委員会が妥当と考えている。周産期委員会を担当として本プロジェクトを進めてよいか諮りたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) 本年度の産婦人科動向意識調査の結果報告について [資料：医療改革 3]

**海野信也委員長**「過去3年間、毎年同一の調査を行ってきた。例年の回答率は6割強であったが、本年は50%を切った。最近2年間の傾向としての産婦人科全体の状況について、『よくなった』という回答は減った。『悪くなった』という回答も減った。『変わらない』が増えている。また自施設の産婦人科の状況については『よくなった』という回答は減った。『悪くなった』という回答は増えた。1年前との比較評価である。『悪くなった』と感じている理由の全体的な傾向は前年と変わらない。本会として優先的に取り組むべき課題についての意見も例年通りであった。本年に特徴的な意見としては『専門医の申請条件が厳しい、大学の囲い込みでないか』という指摘があった。全体をまとめると、産婦人科を取り巻く状況が停滞していることを示唆している。優先的に取り組むべき意見は例年通りであるが、産婦人科医増加策、待遇改善、労働条件改善、女性医師問題、および地域偏在対策などがあげられた。本委員会として年度内に行いたい業務は地域偏在対策として研修指導施設の全国マッピング、および女性医師の継続的就労状況に関する再調査である。」

**小西郁生理事長**「停滞状況をぜひ打破していきたい。」

## 7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 会議開催

- ①8月8日に第1回女性の健康週間ワーキンググループを開催した。
- ②10月3日に第2回女性の健康週間ワーキンググループを開催の予定である。

(2) 地方学会担当公開講座について [資料：男女共同参画 1]

(3) 今後の女性の健康週間事業の進め方について

(4) 過去1年間に開催された産婦人科関連学術集会集会長へ学術集会に於ける託児所設置に関するアンケート調査協力依頼を発送した。

(5) 平成24年度新産婦人科専門医へ産婦人科医師の就労状況についてのアンケート調査協力依頼を発送の予定である。

## 8) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長欠席につき金内優典主務幹事)

(1) 会議開催

- ①第2回若手育成委員会を教育委員会と合同で8月31日に開催した。

(2) 第6回産婦人科サマースクール [資料：若手育成 1]

平成24年8月11日・12日の2日間にわたり、岩手県・メトロポリタン盛岡において開催した。参加者数286名[学生4年生 4名(男2, 女2)、学生5年生 39名(男8, 女31)、学生6年生 40名(男16, 女24)、初期研修医1年 98名(男44, 女54)、初期研修医2年 105名(男41, 女64)]



昨年までの松本を離れての開催であったため、当初参加者数・プログラム進行等に不安もあったが、岩手医科大学はじめ東北の各大学医局のご協力もあり、盛会裡に終了した。

**金内優典幹事**「結果的に20名のキャンセルがでたが、全体として例年通りの参加人数であった。アンケート回収率が低かったのは反省点であるが、全体として好評な結果であった。例年に比べて若手医師企画の評価が低かったのは検討課題かと思われる。」

(3) 山口内分岐疾患研究振興財団からの本年度分の寄附金(500万円)を受領した。スプリング・フォーラムを中心にサマースクールなどを含む若手医師育成業務に使用することとした。

(4) 第3回産婦人科スプリング・フォーラム

平成25年3月2日・3日の2日間にわたり、京都・京都平安ホテルで開催する予定である。

参加資格：医師10年目前後

募集人数：70名程度（地方学会推薦＋公募）

募集開始：平成24年11月中旬

今年開催の際にアナウンスの不備の指摘もあったので、第3回についてはアナウンスに関しても考慮したい。

## 9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長）

(1) 石原理先生より申請のあった研究課題「凍結胚盤胞SETによる周産期予後改善可能性の検討」についての臨床研究審査報告書を提出した。[資料：臨床審査1]

(2) 海野信也先生より申請のあった研究課題「妊娠関連の脳血管障害の発症に関する研究」についての臨床研究審査報告書を提出した。[資料：臨床審査2]

**水沼英樹委員長**「いずれの研究も審査の結果、承認された。」

## 10) 医療安全推進委員会（岡井崇委員長）

6月26日に開催された日本医療安全調査機構の平成24年度定時社員総会に、岡井崇委員長が出席した。[資料：医療安全1]

**岡井崇委員長**より、日本医療安全調査機構定時社員総会の出席報告があった。同機構について、設立経緯、構成メンバー、活動の現状と今後の方向性について追加説明がなされた。

## V. その他

**片淵秀隆理事**「FIGO招致の具体的な段取りはどうなるのか。」

**木村正理事**「2014年が正式に立候補を受け付ける時期となる。2015年バンクーバーにおけるFIGO総会時に招致プレゼンと投票が行われる予定である。現在、正式な宣伝はできないが、立候補の意志は表明していきたい。インド、オーストラリア、中国などが立候補の意志を持っている。日本側の準備として今年度～来年度に開催都市を決めていきたい。」

以上